

## 中国民族観光と民族文化の創出 : 湖北省土家族の事例を中心として

|          |   |
|----------|---|
| 著者       | ? 卿民  |
| ファイル(説明) | 博士論文全文<br>博士論文要旨<br>最終試験結果の要旨<br>論文審査の要旨  |
| 学位授与番号   | 17701甲人社研第37号   |
| URL      | <a href="http://hdl.handle.net/10232/00030847">http://hdl.handle.net/10232/00030847</a> |

## 学位論文の要旨

|        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 氏名     | 龔 卿民                              |
| 学位論文題目 | 中国民族観光と民族文化の創出<br>—湖北省土家族の事例を中心に— |

本論文は、近年の中国の観光ブーム、なかでも民族観光に注目し、民族観光において観光資源として利用されている民族文化がどのような経緯をたどって創出されたのかという問題について、中国の少数民族土家族の事例をもとに考察を試みるものである。具体的には、観光化により、従来の少数民族の人々の「伝統的な民族文化」がどのようにして現在の「観光民族文化」へと変化し再構築されたのかということについて、湖北省恩施州の土家族の事例をもとに、建国から現在に至るその過程を記述し分析した。内陸部の湖北省に位置する土家族は、中国の 55 の少数民族の 1 つであり、外見的にはかなりの程度に漢化し、「少数民族性」に乏しいが、1980 年代の改革開放以降、土家族地域のエリート層によって土家族の歴史と文化の掘り起こしと整備が行なわれ、それをもとに民族観光が展開されてきた。本研究は、土家族の民族観光における「土家族文化の創出」の過程を見ることによって、観光による土家族の人々の「民族としてのアイデンティティ」の再構築の過程と、そのことが土家族の人々にもたらす影響や意味について考察した。

本論文の構成は以下のとおりである。

第 1 章「序論」では、まず、研究の背景として、先行研究により、中国建国以降から現在に至る中国民族観光の歴史的経緯と現状、および問題点を整理した。そして、観光人類学や資源人類学等の研究成果も参照することによって、文化資源の観光化による民族文化の創出と変容および民族アイデンティティとの関係に関する問題について検証し、本研究の位置づけを行なった。さらに、「民族観光」や「観光文化」といった本論におけるいくつかの基本概念について整理したあと、研究方法や本論文の構成について述べた。

第 2 章「中国における民族観光」では、まず、中国における民族観光の発展の経緯について概観し、次に、民族観光と少数民族地域及び少数民族に対する国家の政策、特に文化政策や民族観光における民族文化とその資源化について詳述した。

第 3 章「民族観光の表象の諸形態」では、少数民族における民族観光の現状および民族文化の表象の具体的展開について記述し、現在の土家族の観光類型について整理・考察した。

第4章「湖北省の土家族と民族観光」では、まず土家族の民族識別等について紹介した上で、土家族地域の重慶市、貴州省、湖南省土家族地域における土家族観光の現状について述べ、さらに湖北省の土家族を対象に、土家族や土家族の文化の特徴について説明したあと、その民族観光の展開について、湖北省政府の政策に焦点をあてて考察した。

第5章「恩施土家族における『女兒会』の誕生と観光化」では、本論の主たる研究対象である湖北省恩施州恩施市の土家族について説明した後、恩施市の土家族の民族観光について、「女兒会」と呼ばれる伝統的な婚姻習俗がどのようにして「文化資源化」あるいは「観光資源化」されていったかという経緯について詳述し、地域エリートと民族文化の関係について考察した。

第6章「湖北省恩施土家族における民族文化の継承」では、湖北省恩施土家族地域において、土家族の民族文化が学校教育の現場や地域社会においてどのように継承されているのか、その現状について記述・考察した。

第7章「考察」では、湖北省恩施土家族における民族文化の資源化と観光化及び民族文化の創出の問題に関して、先行研究で取り上げられている他の地域の事例などとも絡めながら、その特徴や土家族の人々にとってそれが有する意義について考察した。

第8章「結論」では、以上の議論を総括し、本論文の意義と課題を示した。